

平成 19 年 5 月 10 日  
東京電力株式会社  
柏崎刈羽原子力発電所

## 5 月定例所長会見における千野所長挨拶内容

### 再発防止への取り組みについて

4 月 24 日、25 日に一連の改ざん問題の概要や再発防止の具体的な方策に関する地域説明会を行い、会場からは、厳しいご意見やご質問を数多くいただきました。私どもにとって、地域の皆さまからご信頼いただくことが事業活動の基盤であるということを改めて肝に銘じるとともに、全所員が一丸となり全力で再発防止対策に取り組む決意を新たにいたしました。

原子力安全・保安院からは、再発防止対策については今後のスケジュールを含めた具体的な行動計画を 5 月 21 日までに報告するよう指示を受けていることから、当社としては期日までに報告する予定です。

### 1 号機の定期検査開始時期の前倒しについて

私どもは、発電設備に係る総点検の結果を踏まえ、4 月 20 日に経済産業省より厳重注意および特別な検査の実施などの指示を受け、1 号機については定期検査の開始時期を 9 日間前倒しすることとしました。

定期検査に入った 5 月 4 日には、発電機をタービンから解列する前後の数時間にわたって保安検査官の立会いを受けるとともに、停止後の現場確認を受け、問題なく作業が終了していることを確認いただきました。このほか、特別原子力施設監督官による特別な監督・監視や、特別な保安検査を実施する旨の指示を受けていることから、私どもとしては適切に対応してまいります。

なお、5 月 7 日に指示をいただいたとおり、変更命令を受けた保安規定についても期限である 7 月 31 日までに届け出る所存です。

また、4 月 27 日に行われた新潟県知事・柏崎市長・刈羽村長の三者会談にて、トラブル情報などの通報窓口を設置するほか、自治体と作業員とのコミュニケーションの場を設けることなどを合意したと聞いています。今後、具体的な対応をはかることになるとは思いますが、私どもとしてはご要請に対して誠実に対応してまいります。

## 6号機の点検停止について

6号機については、4月26日にお知らせしたとおり、タービン建屋1階復水器室内にある給水ポンプ軸封部のシール水排水配管のエルボ部付近から漏えいが確認されたことから、点検を行うために原子炉を停止しました。その後、配管周りの保温材を剥いだところ、エルボ部に微少な孔を確認したことから、当該部の配管を切断し、現在、配管内面を電子顕微鏡によって詳細に調査を行っているところです。原因や発生したメカニズムなどについては、まとめ次第お知らせしたいと考えています。

## 人工放射性物質の検出を踏まえた追加調査結果について

4月6日にお知らせしたとおり、環境放射線モニタリングとして、四半期ごとに採取している松葉から、極微量の人工放射性物質を検出したことから、新たに敷地内5地点の松葉に加えてモニタリングポスト9地点の土壌を追加調査しました。測定結果として、調査地点からは人工放射性物質は検出されませんでした。

最後に、私事ですが、4月27日の取締役会において、6月26日付けで監査役の候補者としての任を命じられました。後任の高橋所長は福島第二原子力発電所の現所長からの異動ですので、引き続き地域の視点に立った発電所運営に取り組むようしっかり引き継いでまいります。

残りの任期は約1ヶ月半ですが、地域の皆さまからの信頼回復に引き続き全力を尽くしてまいります。

以 上

添付)

- 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX
- プレス公表(運転保守状況)

# 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成19年5月)

平成19年5月10日

## 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況												補足説明
			6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第15回定期検査中 停止期間:H19.5.4~	第14回 H17.6.14 ~ H18.5.30 停止期間 H17.6.14 ~ H18.4.30 (321日) (原子炉起動H18.4.26)	第15回定期検査による停止												[1号機] ・5月4日から第15回定期検査開始。(お知らせ済み)
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3 ~ H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定期検査による停止												[2号機] ・3月17日から4月21日にかけて圧力抑制室の点検を実施し、テープ片やビスなどを回収。
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	運転中	第9回 H18.5.12 ~ H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第9回定期検査による停止												
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	運転中	第9回 H18.4.9 ~ H19.1.11 停止期間 H18.4.9 ~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H17.12.11)	第9回定期検査による停止												
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第12回定期検査中 停止期間:H18.11.24~	第11回 H17.7.4 ~ H17.11.2 停止期間 H17.7.4 ~ H17.10.8 (97日) (原子炉起動H17.10.8)	第12回定期検査による停止												
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	停止中 停止期間:H19.4.27~	第7回 H17.12.10 ~ H18.5.12 停止期間 H17.12.10 ~ H18.4.13 (125日) (原子炉起動H18.4.10)	原子炉手動停止												[6号機] ・4月25日、タービン建屋1階復水器室内にある給水ポンプの軸封部のシール水を排水するための配管のエルボ部付近からの漏えいを確認。点検、原因の調査および補修を行うため、4月27日に発電を停止。(お知らせ済み)
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	運転中	第7回 H18.8.23 ~ H19.1.11 停止期間 H18.8.23 ~ H18.12.5 (105日) (原子炉起動H18.12.2)	第7回定期検査による停止												

プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

発電所設備利用率(%) (4月末現在)	
4月	72.6%
19年度累計	72.6%
運転開始後累計	77.2%

発電所発電電力量(万kWh) (4月末現在)	
4月	429,384
19年度累計	429,384
運転開始後累計	79,456,278

ドラム缶発生量(本) (H18年度第4四半期)	
当期発生本数	746
貯蔵庫累積貯蔵本数	21,714
貯蔵庫保管容量	30,000

使用済燃料貯蔵体数(体) (H18年度第4四半期)	
使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	11,856
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

構内従業員データ(人) (5月2日現在)				
県内	柏崎市	826	2,621	58%
	刈羽村	81	273	6%
	その他	80	748	14%
	小計	987	3,642	78%
県外		104	1,175	22%
合計		1,091	4,817	-
		5,908		100%
協力企業社数(社)			635	

「比率」について端数処理の関係で数値と計が合わない場合がある。

来客情報(人) (4月末現在)		
	4月	年度累計
地元	1,507	1,507
県内	1,708	1,708
県外	1,227	1,227
国外	27	27
合計	4,469	4,469

## 今後の主なスケジュール

予定日	内容
6月10日	ちまき・笹だんご作り体験教室(き・な・せ)
6月14日	次回定例所長会見予定
6月21・22日	スタンドグラス教室(柏崎エネルギーホール)
6月23日	スタンドグラス教室(き・な・せ)
6月24日	ミュージックライブ(カムフィ-)

インターネットホームページアドレス  
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社  
 柏崎刈羽原子力発電所  
 広報部  
 0257-45-3131(代)

## プレス公表（運転保守状況）

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
	4月16日	5号機	原子炉建屋出入り用二重扉の不具合について（区分）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期検査中の4月13日、原子炉建屋1階北西側二重扉において、協力企業の作業員が原子炉建屋の内側から外側へ出るために二重扉内に入り、外側扉を開く操作をしたところ、外側扉と内側扉が一時的に同時に開く事象が発生した。</li> <li>・当該二重扉は4月4日に一時的に両方の扉が開く事象が発生したため、4月10日に対策工事を実施済み。</li> <li>・当該二重扉は、かんぬきが挿入されて扉が閉まると、ハンドルの回転位置によりかんぬき位置を間接的に検知するセンサーがハンドルに付いており、そのセンサーが働いて駆動用クラッチが停止状態になると、反対側の扉が操作可能になるインターロック機能を備えている。</li> <li>・その後の調査によっても直接的な原因の特定には至らなかったが、外側扉が開いた際に同時に内側扉が開いていることから、内側扉のハンドルに付属するセンサーの一過性の誤作動により、かんぬきが完全に挿入されていない位置で駆動用クラッチが停止状態となり、内側扉を「閉」と誤認識したため、両方の扉が開いたものと推定した。</li> <li>・対策として、当該二重扉については、ハンドルに付属するセンサーを取り外し、かんぬきが完全に挿入された事を直接検知するセンサーを新たに設置するとともに、同様の構造を持つ二重扉についても今月中に対策を実施することとした。</li> </ul> <p>（前回お知らせ文）</p> <p><a href="http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/press_kk/2007/pdf/19041601.pdf">http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/press_kk/2007/pdf/19041601.pdf</a></p>
	4月25日 4月26日	6号機	タービン建屋内での水漏れについて（区分）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月25日、タービン建屋地下2階復水器室において、床面に水溜まりがあることをパトロール中の当社社員が発見した。現場を確認したところ、タービン建屋1階復水器室内にある配管に取り付けている保温材の隙間より水が滴下し、グレーチング（金網状の床）を通じて地下2階床面に溜まっていたことがわかった。</li> <li>・発見した際に床面に溜まっていた水の量は約4リットル、放射エネルギーは約<math>1.2 \times 10^4</math>ベクレル。その後も微少な漏えいはあったが、液体廃棄物処理系で適切に処理した。</li> <li>・調査の結果、タービン建屋1階復水器室内にある給水ポンプの軸封部のシール水を排水するための配管のエルボ部（配管を曲げている部分）付近からの漏えいであることを確認した。</li> <li>・本事象は直ちに運転に影響を及ぼすものではないが、点検、原因の調査および補修を行うため、4月26日からプラントの停止操作を開始。27日に発電を停止した。</li> <li>・これによる外部への放射能の影響はない。</li> </ul> <p>（前回お知らせ文）</p> <p><a href="http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/press_kk/2007/pdf/19042501.pdf">http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/press_kk/2007/pdf/19042501.pdf</a></p> <p><a href="http://www.tepco.co.jp/cc/press/07042603-j.html">http://www.tepco.co.jp/cc/press/07042603-j.html</a></p>